

OKoTaC 通信

オコタック

NO.11

『大阪商工信金社会福祉賞』受賞



『箕面市 世界の絵本スペシャルウィーク』
世界の文字体験コーナー



『新入生歓迎！高校生交流会』



NPO活動紹介 P2

ヒューライツ大阪・おおさか子ども多文化センター共催セミナー

「外国籍のこどもの教育～高校進学・卒業という壁」

多文化な子ども@大阪のニュース(1) P3

『進路セミナー』『新入生歓迎！高校生交流会』

多文化な子ども@大阪のニュース(2) P4

『箕面市 世界の絵本スペシャルウィーク』

ころちゃんお役立ち情報(3) P4

『日本語指導に役立つ教材 その①』

地域の子ども支援教室から① P5

『平林日本語交流教室』(大阪市住之江区)

Air Mail カリブ海便り P6

『サントドミンゴ日本語学校訪問』

イベント情報 P7

第3回総会報告・スタッフ紹介 P8





おおさかこども多文化センター 活動紹介

ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー〔3回シリーズ〕 第1回「外国籍のこどもの教育～高校進学・卒業という壁」

4月27日、おおさかこども多文化センター、ヒューライツ大阪主催のセミナーに参加する機会に恵まれました。今回は「貧困と教育」セミナーシリーズ1回目、徳島大学総合科学部樋口直人准教授が『外国籍の子どもの教育—高校進学・卒業という壁』というテーマで講演されました。

これまで、日本で生活する外国籍の子どもたちには「就学の義務が課せられてない」ため「不登校」だけではなく「不就学」が問題とされてきました。そして、義務教育でない高校進学に関してはさらにデータが少なくその実態は掴めていないというのが実情です。そんな中で樋口先生は2009年国勢調査から入手し得たデータを基に、現在の状況を分析されていました。

まず、16歳～17歳の進学率の差を見ると日本≒韓国・朝鮮>中国>ペルー>フィリピン>ブラジルとなっており、特に全日制普通科進学者数では出身国別格差が顕著になり始めています。ブラジル人は該当者の半数以下しか高校進学を果たしておらず、進学率は日本人の1/3程度に過ぎません。樋口先生はこの格差の原因が何であるかを事例をまじえて説明されました。その事例のひとつに「南米で生まれ沖縄で育った30代以下の人たちは、本土で育った人たちより高校・大学の進学率が高くなる」という示唆に富むものがありました。沖縄には本土とは違いかつての南米移民の親族が多く住んでいることから「定住意識」が強くなり「親族や教育機関からのサポート」が大きいことにより進学が可能な環境にあるということです。単に日本語適応能力の問題ではなく、彼らを取り巻く環境次第で学習意欲や進学率もアップするという極めて分かり易いエピソードではないでしょうか。



セミナー室は参加者でいっぱい

将来的に帰国するのかそれとも日本に腰を据えるのか、またはその選択肢さえ与えられない状況にあるのか、親の就労が不安定であるゆえに、教育環境に恵まれずに低学歴のまま社会に出て行かざるをえない若者たちが抱える問題は、あまりにも大きすぎます。行政によるこの問題の放置は当然ながら彼等の問題だけに留まらず、いずれは日本全体に貧困層の増大を呼び、より深刻な格差のひろがりへと社会問題化するのには必至と思われます。彼らがステップアップするための対策を具体化して制度的措置が望まれるところです。

セミナーの最後に、中学生の時に来日し高校進学だけではなく大学まで卒業し今は府立桃谷高校で講師をしているベトナム人のリー・タイ・ワーさんと、同じく関西外大の講師で日系ペルー人の宮多良ディスネルさんが日本でのこれまでの体験を話してくださいました。彼らは自分たちの今があるのは、家庭のサポートそして周りの教師に恵まれた結果だとおっしゃっていましたが、私はお二人の話聞きながら、きっと多くのご苦労があったろうにも関わらず、そのことを声高に語られることなく、淡々と自分の体験を話される様子に感心してしまいました。彼らのことを日本に住む外国の子どもたちはもちろんのこと、日本人の若者にも知って欲しいと思いました。それはこのようなお二人の存在は、外国の子どもたちにとって目標や励みになるだけでなく、日本の若者にとっても大いに刺激になるのではないかと思います。

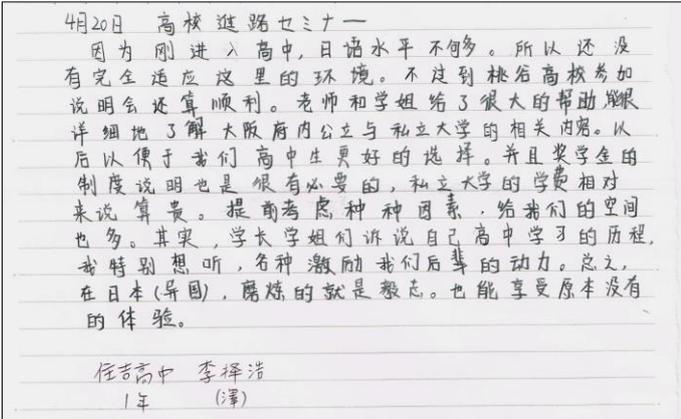
(おおさかこども多文化センター会員 H. N.)



『進路セミナー』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

4月20日(土)、府立桃谷高校を会場に、大学などの上級学校への『進路セミナー』が開かれました。19校から59名の高校生が参加し、卒業後の進路についての説明に熱心に耳を傾けました。

以下は、参加した生徒が中国語で寄せてくれた感想文で、事務局スタッフが翻訳しました。



高校に入学したばかりで、日本語のレベルもまだ十分ではありませんので、今の環境に100%順応してはいけません。しかし、桃谷高校で行われた『高校進路セミナー』は私にとってとてもプラスになりました。先生や先輩のサポートにより、大阪府内の公立大学や私立大学に関する詳しい内容を理解することができました。これによって、私たちはよりよい進路選択ができると思います。

また、奨学金制度の説明も役に立ちました。という

のは私立大学の学費は高いからです。事前に様々な要素を考えることで、私たちの選択肢も広がることでしょう。

そして、先輩方が熱く語ってくださった、それぞれの高校時代のお話は、特に心に響きました。それは私たち後輩のモチベーションを高めてくれる内容でした。つまり、日本という異国で鍛えるべきは強い志なのです。『進路セミナー』では、本当に得難い経験をさせていただいたと思っています。
(住吉高校1年 李择浩(李澤浩))

『新入生歓迎！高校生交流会 2013』

5月25日(土)、府立外教主催で外国にルーツを持つ高校生の交流会が府立桃谷高校で開催され、200名近くの高校生が集まりました。以下は、参加した生徒の感想です。

一人目は日本人生徒です。

「この交流会は私にとって本当に良い経験だったと思います。他ではこういった機会というのはめったにないと思うので、参加することができて嬉しかったです。本当に楽しかったの一言に尽きます。舞台での演奏やダンスは綺麗だったし、言語別に集まって行ったゲームなども面白かったので、個人的にもよい思い出になったと感じています。日本人が少ないという集まりは今まであまり経験したことがないので、少し新鮮でした」

二人目は、日本と中国にルーツがありますが、日本生まれで日本国籍、中国語はできません。

「今回、この交流会に行ってとても良かったと思います。僕は初めてこのような交流会に参加しましたが、様々なルーツを持つ高校生が集まって交流するのは画期的だと思いました。この交流会は中国、韓国・朝鮮、フィリピン、その他の



国別の交流があり、僕は中国の交流会に参加しました。もちろん、中国語が会場内を飛び交い、初めて日本で言葉に困ってしまいました。しかし、交流会はとても楽しかったです。この交流会を通じて、他の国々の生徒と友好的な関係を築いていけたらいいと思いました」
(Y・O)





『箕面市 世界の絵本スペシャルウィーク』

5月12日から18日まで、箕面市立多文化交流センター(指定管理者:箕面市国際交流協会)のオープンを記念して「世界の絵本スペシャルウィーク」を開催しました。集められた500冊の絵本のうち、約250冊は外国語の絵本。言語は24カ国語。大半は府内の図書館から借用したのですが、この日のために母国の絵本を貸してくれたギリシャ人の留学生や、絵本を寄贈してくれたフィリピン、韓国のお母さんなど、いろいろな人の協力でイベントが豊かになりました。



期間中は毎日4回「多言語おはなし会」を開催。日本語教室に通っている地域の外国人市民やブラジルにルーツを持つ高校生、外国語を学ぶ大学生や、留学生などが読み手になって、13言語の絵本で楽しませてくれました。イベントには約400名が来場し、「おはなし会」には延べ220名が参加しました。就園前の親子、韓国語を勉強中という年配の方、「校区探検」の一環で参加した小学生など、参加者もさまざま。「私の国の絵本があった!」と嬉しそうな外国から来た子どもの姿も見られました。読み手になった高校生は事前にポルトガル語の絵本を翻訳して練習したそうで、当日は用意した絵本を読み終わった後、「好きな絵本を持ってきたら読んであげるよ!」と呼びかけると、子どもたちは大喜び!素敵なお姉ちゃんの一面を見せていました。

この企画、実はおおさかこども多文化センターが昨年開催した「えほんのひろば」に触発されて企画したものです。オコタックの皆さんには企画立案から設営、撤収に至るまで、多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

絵本を通して地域の多文化交流が、さらに広がり深まっていくように、箕面でもこのつづきを検討中です!

(箕面市国際交流協会 河合大輔)

.....



ころちゃんお役立ち情報(3)『日本語指導に役立つ教材 その①』

今回のお役立ち情報はインターネットで収集できる日本語指導に役立つ教材です。今後も適宜、掲載していきます。

	機関名/教材名/URL	内容/対応言語
1	日本語指導教材研究会 マルチメディア「にほんごをまなぼう」 http://www.hellonavi.com/foldera/index.html	○ 学校で使用する会話を場面ごとに音声やアニメーションで学べる。 ○ 中国、韓国・朝鮮、スペイン、ポルトガル、ベトナム、カンボジア、英語
2	(公財)兵庫県国際交流協会 「外国にルーツを持つ子どもたちのための母語教材」 http://www.hyogo-ip.or.jp/bogo/index.html	○ ポルトガル語のワークブック・絵カード、ベトナムの民話。 ○ ポルトガル、ベトナム語
3	(財)三重県国際交流財団 新版「みえこさんのにほんご」 http://www.pref.mie.jp/gakokyo/hp/miekosan	○ 学校生活を送る上で必要なことに配慮したにほんご学習教材。 ○ 中国、韓国・朝鮮、スペイン、ポルトガル、フィリピン、タイ語
4	東京都教育委員会 外国人児童・生徒用日本語テキスト「たのしいがっこう」 http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/tanoshi_gakko.htm	○ 受入当初、学校生活に慣れるための教材。 ○ 中国、韓国・朝鮮、スペイン、ポルトガル、ベトナム、フィリピン、ヒンディー、ペルシャ、アラビア、フランス、ラオス、ルーマニア、ネパール、ベンガル、シンハラ、タイ、トルコ、ロシア、ミャンマー、インドネシア、モンゴル語



『平林日本語交流教室』（大阪市住之江区）

平林日本語交流教室は、大阪市教育委員会が夜間に小学校の教室を使って開設している地域日本語教室の1つです。前身である住吉の部落解放識字学級の時代も含め、長年、大人の学習者に交じって外国から来た児童生徒も多数参加してきたこの教室に、編集部が訪問し、お話を伺いました。

現在来ている子どもたちは、小学6年生から中学3年生まで8名。出身は中国が最も多く、他にはタイ、ブラジル、少し前まではフィリピンやペルーなどの子もいました。ほとんどがこの、または隣接する校区の生徒たちです。参加のきっかけは様々で、最初は保護者と一緒に通っていたが、親が仕事等で来られなくなった後も引き続き参加している子。学校で決められた回数の日本語指導だけでは不十分だと、在籍校の先生に連れてきてもらった中学生。昼間はこの平林小に在籍し、夜の教室にも通ってきている小学生もいました。



教室では基本的に、それぞれが自分のやりたい課題や宿題を持ち寄って、自分のペースで勉強します。わからないところがあれば、ボランティアの先生にたずねたり、子どもたち同士で教えあったりしています。出身国によっては宿題など、学校から家に帰ったあとも勉強をするという習慣のない子もいるようで、そんな子どもにとってもこの教室は、学習ペースをつくりお互いに刺激し合える場所になってきたそうです。

一番新しいメンバーのWRさんは、来日11ヶ月。6年生に編入した小学校では特に日本語指導はなく、週に1回この教室に通いながら自分で日本語を勉強したそうです。「最初は全く日本語がわからなかったけれど、この教室で勉強して、少しずつ授業もわかるようになってきた。今は英語が一番得意。苦手は理科だけど、難しいことがあったら、ここで聞いて教えてもらう」と、この日も学校の「植物のつくり」のプリントをうめながら、ときどき同じ中国出身で1学年先輩のRCさんの席に行っては質問していました。そのRCさんは小4のとき来日。最初の1か月ほどは授業通訳がつかいましたが、彼も日本語学習はこの教室だけだったそうです。しかし、こういった地域の教室で、また友だちとの交わりの中で、それぞれ懸命に努力を重ね日本語の力をつけてきました。大分から引越してきた来日2年にも満たない中学3年のOSさんの受け答えは、日本生まれの中学生かと思えるほどの日本語力でした。そして皆、将来は俳優になりたい、部活のバスケを頑張る、学校の外国語クラブで友だちに中国語を教えたよ…など、いきいきと話してくれました。



この日は、途中の休憩タイムに小学6年のRTさんがマジックを披露してくれました。その後はそのネタをめぐってわいわいと、子どもたちの楽しいおしゃべりが始まります。その輪の中にいた学生ボランティアのTさんは、関大ボランティアサークル「ベネボル」の1回生。教室に来るのは2度目ですが、まるで長年活動しているかのようにフレンドリーな、隣のお兄さんの雰囲気です。小学校低学年で日本に来て現在中学1、2年のYさん姉妹は、日常の日本語会話はもうほとんど不自由はありませんが、「ここでは他の学校の子とも会ってしゃべれるから楽しい」と、来日以来5年間ずっと通い続けています。ときどきおしゃべりが盛り上がりすぎて注意されるほど賑やかなときもありますが、そのすぐ横では大人の学習者たちがボランティアと、黒板を使って普通に勉強しています。

この教室は、勉強ももちろんですが、外国にルーツを持つ子ども同士が出会い、母語で話をし、様々な人と交流できる、安心できる“居場所”としての意味も大きいと、ボランティアの岩佐さんは言います。いろいろな人が交じり合い、アットホームでくつろげる居心地のよさが印象的です。

子どもに学校外でも日本語を勉強できる場所を、いろいろな人とふれあう機会を、と望む保護者は多いです。特に年少の子どもたちにとって、自分の住むすぐ近くでこのような場所に通えるということは、継続して参加するための大きなメリットでしょう。平林日本語交流教室は、外国から来た子どもたちが地元の人たちに見守られて育つ場として、ますますその重要性を増していくことと思います。

(取材: OKoTaC 通信 編集部)

会場: 大阪市立平林小学校 生涯学習ルーム (大阪市営ニュートラム 平林駅より南西徒歩6分)

問合せ先: 大阪市教育委員会事務局 生涯学習担当 Tel: 06-6208-9146 Fax: 06-6202-7054



～毎号「メキシコ便り」を連載くださっている金野広美さんが4月、カリブ海を訪問されました。そこで今回は、番外編として「**カリブ海便り**」をお届けします～

『サントドミンゴ日本語学校訪問』

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

さる4月12日から3週間、カリブ海に浮かぶ島・ドミニカ共和国、プエルトリコそしてジャマイカを旅してきました。

この3つの島の中でドミニカ共和国には「カリブの楽園」という日本政府の美しいげないの言葉に誘われて日本から移民が渡りました。1956年7月、28所帯185人を乗せた第一陣がぶらじ丸で横浜から出発、そのあと1959年までの8回にわたり249家族1319人が8つの地域に入植しました。その当時ドミニカ共和国では独裁者として名をはせたトルヒージョ大統領が国土の耕作はもちろん、社会経済基盤が遅れていたハイチとの国境線を強化するという目的もあり、日本からの移民受け入れを提案、日本政府はきっちりとした調査もせず、移民募集を始め、送り出してしまいました。しかし、行った先は掘っても掘っても石ころだらけの土地だったり、塩が土中から吹き上がる土地だったり、まったく水や電気の設備がない場所だったり、また肥沃な農地300タレア(18ヘクタール)無償譲渡という約束が85タレアしかなかったりと、みんなさんごんな思いをしながら筆舌に尽くしがたい苦労を重ねてきました。

そんな大変な中、学業途中で連れてきた子どもたちへの教育、また就学前の子どもたちが日本語を忘れないようにと1959年ハイチ国境のダハボンで日本語学校が作られました。最初は家の片隅で、お父さんお母さんが先生となり授業は始まりましたが、今では7地域62名が各地の校舎で学んでいます。その中で最も規模が大きいドミニカ共和国の首都サントドミンゴの中心地にある学校を訪ねました。

ここで学ぶ生徒は7歳から18歳まで31名、授業は土曜日のみで、朝8時30分から午後3時半まで日本語、音楽、体育を学びます。先生はJICA(国際協力機構)から派遣された若者と、移住者の日本人の方です。使う教科書は移住者の手作りの「にほんごうきうき」や、JICAの発行した「にほんごドレミ」といったもので、大きなイラストが入った本は、少しずつ



日本語理解が進むように作られています。子どもたちは先生の丁寧な説明を一生懸命に聞きながら漢字をノートに書いていきます。いつもはアルファベットで暮らす子どもたちがとって丁寧なきれいな字を書くのにはちょっとびっくりしました。ここでは日本語を学ぶほかに運動会、お話し大会、学習発表会、盆踊り大会などがあり、丁度、子どもたちは6月に催される卒業式で披露する踊り「さくらさくら」や、歌「富士山」、お芝居の「浦島太郎」の練習などに楽しそうに取り組んでいました。

ここドミニカ共和国の日本人社会では少しずつ混血が進み、家庭でも日本語が話されなくなってきている現状があります。そんな中、日本語の必要性をあまり感じなくなっている子どもたちにいかに一世たちの「日本語を守りたい、日本の文化を継承させたい、日本語で孫たちと話したい」という思いを伝えていくのか、懸命に子どもたちを教えておられる先生方の授業を見せていただきながら、今後の課題は大きいと感じた日本語学校訪問になりました。





イベント情報

第2回「在日外国人相談の立場から～貧困化と子どもの教育」 ～ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー〔3回シリーズ〕～

今回の学習会では、横浜をベースに外国籍や外国につながる子どもたちの「居場所」づくりを行うとともに、教育や生活など人権に関わる相談活動を続けている「信愛塾」のセンター長である竹川真理子さんからの現場報告を受け、貧困をはじめとする課題に直面する子どもたちが社会的に排除されないため、そしてエンパワーしていくための支援のあり方を考えたいと思います。

【日 時】 2013年6月22日(土) 午後2時～4時

【場 所】 ヒューライツ大阪・セミナー室 (大阪市西区西本町1-7-7 CE西本町ビル8F)

【報告者】 竹川 真理子氏 (NPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾 センター長)

【資料代】 500円 (「おおさかこども多文化センター」と「ヒューライツ大阪」の会員は無料です)

【定 員】 40名(先着順) 【主 催】 ヒューライツ大阪、おおさかこども多文化センター

【問合せ・申込み】 (資料準備のため6月20日までにお知らせください)

ヒューライツ大阪(一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター)

TEL:06-6543-7003、FAX:06-6543-7004 Eメール:webmail@hurights.or.jp

いろいろな国のことばで 絵本を楽しむ (おおさかこども多文化センター 主催)

日本語を母語としない人たちとともに 多言語での読み聞かせ活動をされている石原弘子さんをお招きし、いろいろな国の言葉の絵本の楽しさについて お話しいただきます。

10ヶ国語対応の絵本『すごいよ ねずみくん』を使った 実践例の紹介も!

絵本の好きな方、絵本を通じた多文化共生活動に興味のある方、ご参加をお待ちしています。

【日 時】 2013年7月6日(土) 午後2時～4時

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 6階 第2会議室

大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル内

(地下鉄 梅田・東梅田・西梅田駅、阪急・阪神電車 梅田駅、JR 大阪駅)

【講 師】 石原 弘子氏 (多言語絵本の会 RAINBOW 代表)

東京・目黒区で始めた地域の日本語教室をきっかけに、2006年から図書館や小学校で、外国から来た人たちと一緒に多言語での読み聞かせを実施。また目黒区子ども条例の絵本『すごいよ ねずみくん』の多言語翻訳版を作成し、絵本を使った多文化共生のためのさまざまな活動を展開されています。

【資料代】 500円 【定 員】 60名(先着順)

【問合せ・申込み】 (資料準備のため7月3日までにお知らせください)

NPO法人おおさかこども多文化センター

TEL / FAX : 06 - 6586 - 9477 Eメール:osakakodomo.ehon@gmail.com



『第12回 Wai Wai! トーク part1 発表会』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

府立高校に在籍する外国にルーツを持つ2,3年生の母語によるスピーチ大会。

日 時 : 6月29日(土) 午後1時半 ~ 5時

会 場 : 府立住吉高等学校 (大阪市阿倍野区北畠2丁目4-1) 阪堺上町線 北畠駅 200m

見学希望は事前に府立外教(Mail: furitsugaikyo@nifty.com)に申し込む。

第3回総会が開かれました

NPO法人おおさかこども多文化センターの2013年度総会が、5月24日(金)、事務所と同じ階にあるヒューライツ大阪セミナー室で開かれました。54名の出席(委任状41名含む)で総会は成立しました。村上理事長の挨拶ののち、事業報告・決算報告、理事・監事の選任(再任)、新理事の紹介、活動計画・予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。

理事長の挨拶の中で今年度、「第7回大阪商工信金社会福祉賞」受賞の紹介があり、出席者からは思わず拍手が起こりました。大阪には多くのNPOが存在しますが、その中で私たちが多文化なこどもたちの支援をしているという点が評価されたということでした。

2013年度の活動については、今年で3日目になる大阪府教育委員会から受託した「ピアにほんご」の運営が主な活動になります。新たな事業として「大阪市西区子育て情報誌作成」(大阪コミュニティー財団助成事業)が加わりました。さらに昨年に引き続き「えほんのひろば」(子どもゆめ基金助成)、ヒューライツ大阪との共同セミナーの企画も発表されました。

これらの活動を実施していくには事務局の力量は、まだまだ未熟で不十分である事は自覚しており、会員のみなさまのご支援とご協力を得て、はじめて実現していくものだと考えています。

今年度もご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

スタッフ紹介(4) 今回は事務局メンバーです。

村上自子(理事長)

18年前に豊中市の小学校に編入して来たペルーの子どもの日本語指導をしたことをきっかけに、外国にルーツをもつ子どもの教育支援活動に関わり始めました。のびた君のような私ですが、周りの優秀なスタッフに恵まれて、なんとか理事長の大役をこなせています。好きな言葉は『人生は贈り物』、旅行大好き!ぶらっと一人旅!動物占いは『子鹿』(一蹴りがあるのでご注意を!)



安田乙世(副理事長)

日本語教師になってかれこれ4半世紀。大阪YWCA日本語教師会に現在も在籍しています。日本語教育を軸とした“生活者としての外国人支援”を中心に据えてやってきましたが、近年増加傾向にある外国にルーツを持つ子どもたちの支援にも関わりたいと思っていた時、当NPOとの縁に恵られました。分野を超えた『必然的な出会い』をコーディネートする役割を果たしたいと思っていますが、教育・福祉・芸術・行政・企業等との『関係を紡ぐ』ためにNPOスタッフとして何ができるのか模索中の毎日です。

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼ「味」味「り」)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
(ワガサ: トクヒ) オオサカコドモタフンカセンター

